

沿線写真の紹介(1) — 踏切や道路の昔の様子 —



請地大踏切 (現在の伊勢崎線第2号踏切)
撮影年：不明 (昭和30年頃)



請地大踏切と交差する道路 (現在の桜橋通り)
撮影年：不明 (昭和30年頃)



北十間川とコンクリート工場 (現在の東京スカイツリー® 付近)
撮影年：不明 (昭和40年頃)



言問通り (現在のとうきょうスカイツリー駅交差点・ハナミ坂広場付近)
撮影年：1985 (昭和60) 年



言問通りと旧業平橋駅 (右の建物は当時の東武鉄道(株)本社)
撮影年：1985 (昭和60) 年

高架化工事(連続立体交差事業)を行っている伊勢崎線第2号踏切付近(墨田区押上二丁目ほか)は、請地村や請地町と呼ばれており、地元では請地の大踏切または大踏切と呼ばれていたそうです。高架化工事に関する道路(桜橋通り、言問通り)も、昔から区の道路としては比較的大きく、言問通り沿いには業平橋駅入り口が、その隣には東武鉄道(株)本社がありました。周辺では、北十間川沿いにコンクリート工場が立ち並んでいたこともありましたが、東京スカイツリー® 建設などを契機として、周辺の道路環境は現在の形となっています。

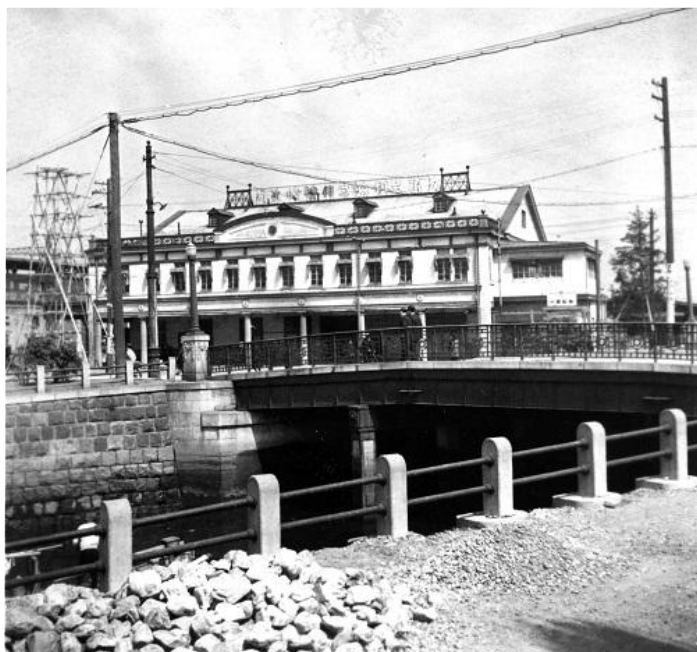
写真提供：すみだ郷土文化資料館

沿線写真の紹介(2) — 昭和初期の駅の様子 —



当時の浅草駅（現とうきょうスカイツリー駅）に設けられたドック※
東武博物館提供/撮影年：不明（昭和初期頃）

とうきょうスカイツリー駅は、東京スカイツリー® 開業を契機として、業平橋駅から名称が変わりましたが、駅名の変更が多く、現在の浅草駅ができる前には浅草駅または浅草停車場と呼ばれていました。



北十間川にかかる東武橋と元浅草駅
（昭和6年現在の浅草駅が開業後に業平橋駅に改称、現とうきょうスカイツリー駅）
東武博物館提供/撮影年：不明（昭和初期頃）

川沿いの立地を活かして、ドック※を駅に設けて舟運の拠点として利用されていた時期もあったそうです。

※ドック（船渠-せんきょ-）
船を作ったり、繋ぎ止めたり、荷物の積み下ろしを行うために、海や川を彫り込み、または埋め立てて作った袋状などになった施設のこと。



電化当時の浅草駅（現とうきょうスカイツリー駅）～電化の思い出アルバムより～
東武博物館提供/撮影年：1927(昭和2)年



関東大震災後（電化開業当時）の浅草停車場（現とうきょうスカイツリー駅）
～浅草御大典写真帖より～
東武博物館提供/撮影年：不明（昭和初期頃）

沿線写真の紹介(3) — 昭和30年頃の駅の様子 —



業平橋駅（現とうきょうスカイツリー駅）構内でバスに乗り換える団体客
東武博物館提供/撮影年：1954(昭和29)年



業平橋駅（現とうきょうスカイツリー駅）構内の貨物線（東武鉄道トキ1形）
東武鉄道撮影/撮影年：1955(昭和30)年頃



業平橋駅（現とうきょうスカイツリー駅）の全景
東武鉄道撮影/撮影年：1955(昭和30)年頃

貨物の駅としても活躍し、
業平橋駅構内には、ホッパー線※1
がありました。現在、貨物輸送は
行われていませんが、留置線※2の
数が10線（現在は高架化工事に
伴い規模を縮小）と多いことから
も、過去の貨物駅の名残が感じら
れるのではないのでしょうか。

※1 ホッパー（Hopper）線

粉や粒のものを下に落とすための漏斗状の装置のこと。ホッパとも呼ばれ、
鉄道用語でホッパー車は貨物輸送用の貨車を、ホッパー線は貨物輸送用の
線路を指すと言われており、碎石などを運ぶ。砂利線とも言われる。

※2 留置線

鉄道用語で、鉄道駅などで一時的に列車を待機させる線路のこと



ホッパー線の延長工事が始まった業平橋駅（現とうきょうスカイツリー駅）構内
～交通東武より～
東武博物館提供/撮影年：1957(昭和32)年



業平橋駅（現とうきょうスカイツリー駅）構内のホッパー～交通東武より～
東武博物館提供/撮影年：1960(昭和35)年

沿線写真の紹介(4) — 昭和後期～平成初期の駅の様子 —

業平橋駅には、貨物の取扱いをやめた用地などを活用して地上ホームが設けられていた時期もありました。地上駅は近くの駅では唯一10両編成に対応していたため、始発駅となっていました。



点字ブロックが設置された業平橋駅
(現とうきょうスカイツリー駅) ホーム
東武鉄道撮影/撮影年：1978(昭和53)年

高架ホームの屋根(旅客上屋)の柱は、本物のレールを曲げて作られています。

とうきょうスカイツリー駅では、業平橋駅からのリニューアル時に再塗装していますが、1887年にカーネギー社が製造したレールを使用していると言われています。

(一部の屋根は高架化工事に伴い撤去済みです。)



業平橋駅(現とうきょうスカイツリー駅)高架ホームと地上ホーム
地上駅は10両編成対応で始発駅
東武鉄道撮影/撮影年：1990(平成2)年

点字ブロック(視覚障害者誘導用ブロック)は、1965(昭和40)年に日本で考案・1967年から設置が始まり、鉄道駅にも順次設置されてきました。新しい駅でも、点字ブロックをはじめとしたバリアフリー設備は、東京都福祉のまちづくり条例などに基づいて整備していきます。



業平橋駅(現とうきょうスカイツリー駅)全景
東武鉄道撮影/撮影年：1995(平成7)年